

平成 28 年 7 月 1 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 プ イ キ ュ ー ブ  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 間 下 直 晃  
(コード番号：3681 東証第一部)  
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 大 川 成 儀  
(TEL. 03-5768-3111)

**営業外費用（為替差損）及び特別損失の計上、  
並びに業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、平成 28 年 12 月期第 2 四半期の連結決算（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日）において営業外費用（為替差損）及び特別損失の計上を見込むとともに、最近の業績動向等を踏まえ、平成 28 年 2 月 12 日公表の平成 28 年 12 月期第 2 四半期（累計）及び通期の連結業績予想を修正いたしましたので、下記の通り、お知らせいたします。

なお、平成 28 年 12 月期第 2 四半期（累計）の連結業績については、平成 28 年 8 月 10 日公表予定の「平成 28 年 12 月期第 2 四半期決算短信」をご覧くださいませよう、よろしくお願いたします。

記

1. 営業外費用（為替差損）の計上

為替相場の急激な変動により、平成 28 年 12 月期第 2 四半期の連結決算において、為替差損 380,304 千円を営業外費用に計上する予定です。

なお、上記の金額は、主として、平成 28 年 12 月期末時点の当社海外連結子会社への外貨建貸付金を同日の為替相場で評価したことで発生する評価損です。

2. 特別損失の計上

主力の Web 会議サービスの高画質化・高音質化を図るため、リアルタイムビデオ通信ソフトウェアを購入し検証を進めてきました。しかしながら、当該ソフトウェアのパフォーマンスが想定を下回り、当該ソフトウェアとは別のテクノロジー（現在、採用中）の方が優位であることが確認できたため、当該ソフトウェアの使用を中止するとともに、今後の採用も見込まないため、当該ソフトウェアの減損処理を行うことを決定しました。

これにより、平成 28 年 12 月期第 2 四半期の連結決算において、減損損失 32,021 千円を特別損失に計上する予定です。

### 3. 業績予想の修正

#### (1) 平成 28 年 12 月期第 2 四半期(累計)の連結業績予想数値の修正

(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	3,644	148	105	112	5 円 81 銭
今回修正予想(B)	3,405	△34	△439	△444	△22 円 97 銭
増減額(B-A)	△238	△182	△545	△557	
増減率(%)	△6.5	—	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半 期(累計)実績 (平成 27 年 12 月期第 2 四 半期(累計))	2,699	194	200	68	3 円 67 銭

(注) 前回発表予想及び今回修正予想の 1 株当たり四半期純利益は、平成 28 年 6 月 30 日現在の発行済株式総数(19,368,000 株)を基に算出しております。また、前期第 2 四半期(累計)実績の 1 株当たり四半期純利益は、平成 28 年 1 月 1 日付の 1 株につき 2 株の割合で実施した株式分割が前期の期首に行われたと仮定して算出したものです。

#### <修正の理由>

当期第 2 四半期連結累計期間において、売上高は、国内外の既存のクラウド型サービスは堅調に推移しているものの、中国での教育事業者向けオンライン教育サービスの課金開始が遅れていること、オンプレミス型サービス案件の検収の遅れ、熊本地震の影響による電子黒板システム(アプライアンス)の納入の先送り、急激な円高による海外売上高(円換算)の減少等のため、前回発表予想をやや下回る見込みとなりました。

営業利益は、費用は概ね計画通り推移しているものの、主に前述の通り、売上総利益率の高いクラウド型サービス(中国での教育事業者向けオンライン教育サービス)、オンプレミス型サービスの売上減少の影響により、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

経常利益は、営業利益が前回発表予想を下回る見込みとなったことに加え、上記 1 の通り、主に当社連結海外子会社への貸付金に対する為替評価替に伴う為替差損等の営業外費用を見込んだため、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益が前回発表予想を下回る見込みとなったことに加え、上記 2 の通り、特別損失を見込んだため、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

#### (2) 平成 28 年 12 月期通期の連結業績予想数値の修正

(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	8,500	839	771	650	33 円 60 銭
今回修正予想(B)	8,200	444	7	△183	△9 円 48 銭
増減額(B-A)	△300	△395	△763	△834	
増減率(%)	△3.5	△47.1	△99.0	—	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 12 月期)	6,083	348	179	93	5 円 01 銭

(注) 前回発表予想及び今回修正予想の 1 株当たり当期純利益は、平成 28 年 6 月 30 日現在の発行済株式総数(19,368,000 株)を基に算出しております。また、前期実績の 1 株当たり当期純利益は、平成 28 年 1 月 1 日付の 1 株につき 2 株の割合で実施した株式分割が前期の期首に行われたと仮定して算出したものです。

<修正の理由>

当期において、売上高は、当期第2四半期累計期間の売上高の減少、急激な円高による海外売上高（円換算）の減少に加え、課金開始が遅れている中国での教育事業者向けオンライン教育サービスの売上計上開始を保守的に来期に見込んだため、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

費用は、下期での主に教育業界向けを中心とした各種サービス提供に伴う外注費等の増加を見込み、主に売上原価が増加する予定です。

営業利益は、下期の費用の増加に加え、売上高の減少及び当期第2四半期累計期間の営業利益の減少の影響のため、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

経常利益は、営業利益が前回発表予想を下回る見込みとなったことに加えて、当期第2四半期累計期間の営業外費用（主に為替差損）の実績及び直近の為替相場を勘案した結果、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益が前回発表予想を下回る見込みとなったことに加えて、当期第2四半期累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益の減少の影響のため、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

※ ご参考

1. 平成28年12月期通期の連結業績予想（販売形態別売上高）

（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

（単位：百万円）

販売形態別売上高	平成27年 12月期	平成28年 12月期		
	実績	前回予想	今回予想	予想修正額
クラウド	3,947	5,504	5,206	△297
オンプレミス	504	710	794	83
アプライアンス	1,218	1,776	1,704	△72
その他	413	509	494	△14
合計	6,083	8,500	8,200	△300

2. 平成28年12月期通期の連結業績予想（地域別売上高）

（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

（単位：百万円）

地域別売上高	平成27年 12月期	平成28年 12月期		
	実績	前回予想	今回予想	予想修正額
日本	4,783	6,284	6,284	0
中国	836	1,127	817	△310
その他	463	1,087	1,098	10
合計	6,083	8,500	8,200	△300

以上

(注) 本資料に記載しております業績予想等につきましては、現時点で得られました情報に基づき算定しております。実際の業績は、今後様々な要因により本資料の見通しとは異なる結果となる可能性があります。